

平成26年度調査研究成果報告会 挨拶

平成27年8月5日
幌延深地層研究センター 所長 清水和彦

幌延深地層研究計画における平成26年度の調査研究の成果を報告書として取りまとめましたので、その内容を報告させていただきます。

まず、地下施設の整備状況については、昨年度、地下350mの深さに研究用の坑道を整備するための工事を無事に完了することができました。これにより、東立坑と換気立坑は深度380mまで、西立坑は深度365mまでの掘削が終わり、深度350mに全長約760mの水平坑道が完成しました。深度350mの水平坑道については、昨年7月から一般公開も行っています。

以前、ご心配をおかけした坑道内の湧水 - 坑道周辺から染み出してくる地下水 - については、これを抑制するために行った対策工事の経過も良好で、現在、坑道全体からの湧水量は一日当たり約90m³と、処理能力の750m³に対して、かなり余裕のあるレベルで安定した状態にあります。

研究開発としては、新しくできた地下350mの水平坑道において、実規模大の模擬人工バリアを使った性能確認試験や、安全性の評価に必要なデータを取得するためのトレーサー試験など、地層処分に直結した本格的な試験に着手することができました。

地上の見学施設である「ゆめ地創館」については、6月末で丸8年が経過しましたが、その間の来館者総数は8万1千人、年平均で1万人となっています。

このように、幌延深地層研究センターの業務を円滑に進めることができているのは、幌延町をはじめとする地域の皆さまのご理解とご支援の賜物と深く感謝しています。

一方、実際の処分事業については、5月22日に最終処分に関する基本方針が閣議決定により改定されました。その中で、処分場の候補地については、国が前面に立って科学的により適性が高いと考えられる科学的有望地を提示し、関係する地方公共団体に協力を申し入れていくという方針が明確にされました。これを受けて、全国各地でのシンポジウ

ムや自治体への説明会などが行われてきています。また、科学的有望地をどのように選定していくかについては、引き続き国の作業部会で議論が継続されているところです。

こういった国の取り組みが功を奏して、地層処分の事業が前へ進んでいくことを期待し、それを後押ししていくためにも、幌延での研究を通じて、安全・安心な地層処分を支える技術基盤の強化と理解の促進に努めていきたいと考えています。

今後とも、幌延町および北海道との間で取り交わした三者協定の順守を大前提として、安全第一に情報公開を徹底させながら、研究開発を進めていきますので、引き続き、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願い致します。

以上